

市民百景

第 35 回

みんなが寄れる場所を、このまちに。

家族と仲間で作る居場所づくり

NEVERLAND VILLAGE 高橋 一美さん (50)



「飲食店をやりたいかったわけではないんです」と話すのは、鶴住居トモスで飲食店を運営する高橋一美さん。震災後、気軽に集まれる場所が減った地域で「誰でも寄れる居場所がほしい」という仲間との思いを出発点に本年3月12日にオープンしました。

店作りでは窓が多く外の様子が見える現在の施設を活かし「おしゃべりできる場所」を重視。植物は置いた際に「ここにも欲しい」と増え、明るく開放的な空間が少しずつ形づくられていきました。店内には誰でも使えるフリースペースも設け、勉強や在宅勤務などにも気軽に利用できます。

メニューは当初コーヒーだけの予定でしたが、家族や仲間の提案で軽食から食事、アルコールまで幅広く充実。スタッフの多くは飲食業未経験ながら「まずやってみる」の姿勢で一つずつ覚えてきたと言います。そんな思いのこもった店には、子どもや親世代、地域の高齢者、帰省した若者が再会するなど「地域の居場所」になっています。

大学生の長男・櫻最^{おうせい}さんも夏休みにスタッフとして参加し「家の延長のような場所で友達も誘いやすい」と笑顔を見せます。

「帰ってきたら、あそこで会おう」と言える場所があれば、若い世代が地元に戻るきっかけにもなる。みんなが寄れる場所を無理なく続けていきたい。仲間や家族とともに育ててきたこの店は、これからも地域に新しいつながりを生み出し続けます。



「すこやかアイドル」では、お子さんの笑顔とご家族のメッセージを紹介します。1～5歳くらいのお子さんの写真を広報に掲載しませんか？
市オープンシティ・プロモーション室（☎ 52-0068）または市のホームページからご連絡ください



はる 水谷 暖月ちゃん (5歳)
かの 奏乃ちゃん (2歳)

いつも元気いっぱい！
これからますます
大きくなってね！



ほか 佐々木 帆華ちゃん (2歳)
たくさん遊んで、食べて、
元気に成長してね！
帆華の笑顔に癒されています！

